



学校法人志賀学園
久之浜こども園
令和7年6月30日

園庭のフェンスに朝顔が蔦を絡ませ、朝の光を浴びて元気に咲いています。園舎裏のじゃが芋畑は、薄紫の花が散り始め「もうすぐ、じゃが芋が掘れますよ〜！」と教えてくれています。「茎が枯れてきたら堀時だね！」と、自然と対話しながら子ども達と毎日眺めています。最近は蒸し暑い日が続き、熱中症が心配されますので、なるべく朝の早い時間に園庭で遊ぶようにしています。暑さ指数基準値が25~28℃を超え『厳重警戒』となった日は、園庭の活動を取りやめたり、プール遊びも『水温+外気温=50℃~64℃以内』を目安に暑すぎず寒すぎずの適温で行うようにしています。このようなことに注意しながら暑い夏を乗り切りたいと思っています。

さて、もうすぐ七夕です。七夕祭りは、日本の伝統行事の一つです。昔の人は「文字が上手に書けますように」「お裁縫が上達しますように」などと、技術・技能の向上を願って短冊を書きました。また「豊作でありますように！」と茄子や胡瓜、西瓜を飾ったそうです。それが現代では野菜に見立てた紙工作やくす玉など様々な飾りを笹に飾るようになりました。短冊には、「野球選手になれますように」「サッカーが上手になりますように」「ピアノが上手に弾けるようになりますように」「プリンセスになりたい」など、憧れや夢、習い事が上達するようになど願い事を書くことを子ども達に伝えながら笹飾りをしたいと思います。7月になると各クラスの軒下に、笹飾りが飾られます。送り迎えの時や自由保育参観においでの際には、是非ご覧下さい。

今月は愛着形成についてお伝えします。愛着形成は1歳半の時点で原型が作られ「自分は大切にされている」ということがわかるようになります。そして成長するにつれ「自分は生きる価値がある」という感覚が育って行きます。この愛着関係が形成されないと不安やストレスを持ちやすい性格になってしまいますのでこの時期の親子の関わりは重要です。愛着の形成に向けて何より重要なのは「触れる」こと！安心できる「抱っこ」が効果的です。コミュニケーション、スキンシップがなくては人の心は育たないと言われていています。子どもの気持ちや欲求を感じ取る「感受性」また、子どもの働きかけにこたえる「応答性」を豊かにしましょう。

子どもの自己肯定感が育まれる大切なこの乳幼児期はあっという間です。子どもは親のぬくもりで育つと言われます。お子さまをたくさん抱きしめてあげてください。